

5 薬剤耐性タマネギ灰色腐敗病菌に対する有効薬剤

ねらいと成果

ベンゾイミダゾール系薬剤（チオファネートメチル）に耐性を示すタマネギ灰色腐敗病菌が検出された。多発傾向にある本病に対する防除対策を確立するために、耐性菌に対する各種殺菌剤の防除効果を検討したところフルジオキシニル、プロシミドン等の効果が高かった。

内容

1 試験方法

試験1

2000年2月7日に定植したタマネギ（品種アース）にジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤1000倍、プロシミドン水和剤1000倍、イミノクタジン酢酸塩・ポリオキシニル水和剤1000倍、フルアジナム水和剤2000倍、イミノクタジンアルベシル酸塩水和剤1000倍、アゾキシストロビン20フロアブル2000倍、チオファネートメチル水和剤1000倍、フルジオキシニルフロアブル20 1500倍を3月30日、4月13日と27日の3回 各区150 l / 10a の割合で肩掛け式噴霧器で散布し、4月6日と20日の2回、10⁴個/mlに調整した分生孢子懸濁液を噴霧接種した。5月22日の収穫時に鱗茎の発病の有無を調査した。

試験2

2000年2月7日に定植したタマネギ（品種アース）にジエトフェンカルブ・チオファネートメチルを除いて試験1と同じ薬剤を5月22日に散布し、5月29日に分生孢子懸濁液を接種した。散布及び接種方法は試験1に準じた。収穫時に腐敗が見られなかったため、収穫後すぐに鱗茎をコンテナに詰めて、10℃で貯蔵した。75日後の8月30日に鱗茎の腐敗を調査した。

2 結果と考察

無処理区での腐敗球率は試験1で82.3%、試験2で44.0%と多発生条件であった。フルジオキシニルの試験1及び2の防除価はそれぞれ87、64と安定して高い防除効果を示した。次いでプロシミドンが62、55と高く、イミノクタジン酢酸塩・ポリオキシニル、フルアジナム、イミノクタジンアルベシル酸塩、の防除価も44～58と効果が認められたがプロシミドンより劣った。アゾキシストロビンの防除効果は安定しなかった。チオファネートメチル及びジエトフェンカルブ・チオファネートメチルの防除効果は全く認められなかった（表）。

今後の方針

苗浸漬薬剤などの検討を行い防除体系を確立する。

西口 真嗣（病害虫防除所）

表 タマネギ灰色腐敗病に対する薬剤防除効果

供試薬剤	試験1 (収穫時)		試験2 (貯蔵後)	
	発病株率 (%)	防除価	腐敗鱗茎率 (%)	防除価
ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル	88.6	-7.4	—	—
プロシミドン	31.3	62.0	20.0	54.5
イミノクタジン酢酸塩・ポリオキシニル	42.3	48.6	23.5	46.6
フルアジナム	46.3	43.7	18.5	58.0
イミノクタジンアルベシル酸塩	40.7	50.5	24.7	43.9
アゾキシストロビン	47.5	42.3	51.6	-17.3
チオファネートメチル	85.0	-3.0	58.9	-33.9
フルジオキシニル	11.1	86.5	15.7	64.3
無散布	82.3	—	44.0	—